

Lead

All roads *lead* to the future リード

コミュニケーションペーパー

2020 夏号
Summer

No. 033

¥0
TAKE FREE

〈特集〉

〈特集1〉

「先生になりたい!」その夢にまっすぐ向き合う

教育学部の取り組み

〈特集2〉

機能性セラミックスの 可能性に迫る!

まなびの時間

地域協働学部 デザインゼミ

受け継がれるデザインの力

がんばる!先輩

卒業後も絵を描き続け、
登竜門の公募展でグランプリ!

キラ星高知大生

大学を早期卒業し、
大学院進学を目指す!

Kochi University Topics

Photo :第3回高知大学フォトコンテスト応募作品「いつかは自分もあのピッチに」

「先生になりたい！」その夢にまっすぐ向き合う

教育学部の特集1 取り組み

教員を目指す学生が集まる教育学部。
4年間の学びの中で高い専門性を身に付け、多くの卒業生が高知県内外の教育現場で教員として活躍しています。学生たちの将来の夢を支えるために、教育学部ではどのような取り組みを行っているのか。卒業生たちの声を交えて紹介します。

教育研究部人文社会科学系教育学部 教授
教育学部長

おか たに ひで あき
岡谷 英明

広島県出身。広島大学教育学部卒業、同大学院教育学研究科教育学専攻修了。修士(教育学)。「新型コロナウイルスの流行によって、学生たちは大学に集えず、難しい状況です。しかし、あえて厳しい状況をプラスに変えることを期待したい。危機的な状況に際し、子どもたちのために何ができるのかを考える、とてもいい機会だと前向きにとらえてほしい」

幼児教育
コース
北島 泉さん

幼児教育の研究的な視点は
教員生活の自信になります



成する「特別支援教育コース」など14のコースから選ぶことができます。すべてのコースで、複数の免許を取得することが可能なのも大きな特徴です。例えば、教科ごとのコースでは小学校教諭・種免許と中学校教諭・種免許の両方取得することが卒業要件であり、希望すれば高校や特別支援学校教諭の免許を取ること

朝倉キャンパスの一角を占める教育学部。1〜4年生、約550人の学生が教員を目指して学んでいます。「教育学部の目的は、質の高い教員を育成することです。その達成に向けて、特徴的な取り組みを行って

現場で力を発揮する
実習系授業が充実

もできます。また、複数の教科の免許取得を目指すコースもあります。

岡谷学部長はコース設計の狙いについて、「地域の大学である高知大の教育学部として、高知県の教育現場の実状に則した仕組みを構築しています。特に問題なのは、中山間地における教育です。児童が少ないうえに教員も少なく、1人の教員が複数の教科を受け持つこともあります。スムーズな運営のために、小・中学校間での人事交流も行われており、こうした動きに対応できる教員を育成するため、複数の免許の取得を可能にしています」と説明します。

夢をつかむための
あきらめない心

「4年間にわたって何度も実習を行うことで、現場に強い教育力を養います。これは、県内の学校や先生方、地域の皆さんの支援なくしては成り立ちません。学生たちは高知県に育っていただいているという過言ではありません」と、岡谷学部長は力を込めて話します。



あそぼーや

手厚い就職支援も、教員を目指す学生を支える教育学部の特徴です。教員採用試験対策の模擬授業指導や面接指導、体育や音楽の実技指導などのほか、教員採用内定者を迎えるための座談会の開催など、大学の就職室とタッグを組んでさまざまな支援プログラムを行っています。また、教職のキャリア形成を支援するためのガイダンスを1年生から行うなど、早い段階から学生への意識づけも実施。多くの学生が学部での講義に加え、採用試験に向けたこれらのプログラムに参加するそうです。

「学生たちを支援するのは、学部だけではなく、まず、学生の保護者の皆さんに入ってもらいたい。後援会には、学部の教育活動の助成のほか、教員採用模擬試験の実施経費などを援助いただいています。また、教育学部の卒業生で組織する「如泉会」からも援助をいただき、おかげでさまざまな支援を実施することができています」

就職支援も功を奏し、教育学部は全国に44ある国立の教員養成大学・学部の中でもトップレベルの教員就職率をキープ。2019年3月卒業者の就職状況では、全国2位※の成果を上げました。しかし岡谷学部長は、決して就職率を追い求めた結果ではないと断言します。

※卒業生数に対する正規採用者数と臨時任用者数の合計の割合。
卒業生数から大学院への進学率と保育士の就職者数の合計を除いた場合、全国5位



「誇るとするならば、それは学生のあきらめない気持ちです。教職は狭き門です。1度の試験では正規採用に至らず、非常勤講師をしながら再チャレンジする人も少なくありません。先日、5年間非常勤講師をして、やっと試験に通過した卒業生から連絡がありました。教員になることを目指し続ける姿勢が素晴らしい。大学4年間で、教員になりたいという気持ちが折れかけることがあるかもしれませんが、そんな時に先生や先輩などさまざまな人が、学生の話を聞き、アドバイスをしています。こうしてさまざまな面からサポートをし、夢をあきらめない心を育てることが、高知大学教育学部の良さなのではないでしょうか」

夢に向かって進む学生を、教育学部はしっかりと支えています。

春から先生！2019年度・卒業生の声

国語教育
コース
三宅 葵さん

もっと学びたいという気持ちを
受け止めてもらえました



教師を目指したきっかけは、高校生の時にお世話になった先生方へのあこがれからです。生徒とともに学び、見守る姿に憧れ、教員になりたいと思うようになりました。また中学生の時に受けた教育を振り返り、思春期の子どもたちへの教育は人格形成で大きな役割を担うと考え、中学校の教員を目指しました。夢がかなない、4月から香川県の中学校で国語科教員として働きます。教員採用試験の対策として、教育学部や就職室が開くさまざまな講座に参加しました。現役教員のOB・OGの話を聞く場や面接指導、模擬授業指導、筆記試験対策などがありました。2次試験では模擬授業が課せられますが、教育実習での取り組みや、友人と試行錯誤しながら指導案を練ってきたという経験が役に立ちました。教育学部での4年間で印象に残っているのは、学ぶ機会を自分が望んだ時には、先生方や就職室の職員の方々がいつも力を貸してくださったことです。例えば、子どもたちと接する機会を増やしたくて就職室に相談したところ、いろいろな学校に授業を見に行くことを提案していただき、学校へ連絡もしてくださりました。就職室は就職対策だけでなく、学びのサポートもしてくれます。

また、教育学部には先輩が新入生をサポートする取り組みがあり、先輩たちと親しい関係が築けます。教員採用試験の体験談などを聞く機会もあり、そこで困ったときには就職室に相談してみるといいとアドバイスをもらいました。教育学部の難しさの一つは、正解がないということがあると思います。一つの題材でもいろいろな授業の仕方があるし、どれが正解というわけでもありません。だからこそたくさん悩み、ゼミの先生はもちろん、違うゼミの先生や友達、先輩にたくさん相談に乗ってもらいました。そのような恵まれた環境が高知大学にはあります。大学の4年間はとても充実していました。実習系のカリキュラムも多いので忙しかったのですが、友達との交流も含め、その忙しさが心地いいものでした。中学生の自主勉強の指導や、小学校1年生の授業をサポートするボランティアにも取り組みました。いろいろなことにチャレンジできた大学生活です。時代の変化に伴って、教員に求められるものも常に変化していくと思います。だからこそ、子どもたちと一緒に、前向きに学び続ける姿勢を忘れない教員を目指したいと思っています。

中学生の時の職場体験で保育園に行っていたので、幼児教育に関わりたと思っていました。念願が叶って、この春から、徳島県の認定こども園(幼稚園及び保育所の双方の位置づけを有する施設)に担任します。高校3年生の時に高知大学のオープンキャンパスに参加し、幼児教育コースがとても設備が整っていることがわかりました。キャンパスの雰囲気にも魅了されて、高知大学の教育学部を目指しました。幼児教育コースは2015年度に開設された新しいコースで、私は2期生として入学。コースでは理論から実践に至るまで幅広く教えていただき、幼稚園教諭と保育士の免許のほか、特別支援学校教諭の免許を取得しました。学びの中でも印象に残っているのが、子どもたちを招待して行うふれあいの活動「あそぼーや」です。年10回の開催で、1年生が主体で企画から運営まで行います。ただ子どもと遊ぶのではなく、目的をもって進行しなければならず、プレッシャーを感じた取り組みです。しかし、幼児教育の現場を模擬的に体験でき、終了後に行う振り返りでレベルアップを図ることができ、実践力を養えました。

公立の保育所や幼稚園への就職には、公務員試験を受けなければなりません。私は3年生の秋ごろから対策を始めました。1次試験は一般教養と保育や幼児教育の専門知識を問うものですが、幼児教育コースの同級生で集まって、たがいに教えあひながら勉強を進めていました。一人で勉強するよりも刺激があり、やる気にもつながる環境でした。おかげで、コースの11人の同級生は皆、保育士・幼稚園教諭採用試験に合格することができました。また、2次試験はピアノ演奏や絵本の読み聞かせなどの実技がメインになるのですが、就職室が開催する対策講座に参加したり、先生に絵本の指導をしていただいて、レベルアップを図りました。高知大学で学ぶことができて本当に良かったと思うことは、研究的な視点をもって幼児教育を教えたことがありました。子どもを理解し、目指す子どもの姿を決め、そこに向けてどのような支援や手立て、環境を準備するかを考えるとき、常に研究的な視点を持つことの大切さを教わりました。子どもの実態と理論を結び付けて幼児教育を学べたことは、これから先生として働く私の大きな自信になると思います。これからは、子どもの気持ちを一番に考え、子ども一人一人に向き合うことのできる先生を目指します。



機能性セラミックスの可能性に迫る！

自然科学系理工学部専門講師、藤代史先生は、陶磁器などで知られるセラミックスに化学的な面からアプローチ。研究室に所属する学生たちとともに、新たな特性をプラスする機能性セラミックスの研究に取り組んでいます。

ある機能性セラミックスは新たな電池に応用できる!?

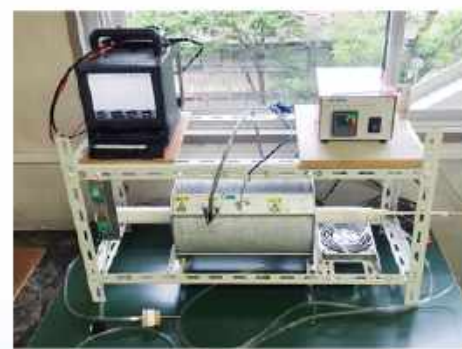
学生時代は光物性物理学を学んでいた藤代先生。その後、化学寄りの研究に移行し、高知大学では物性化学分野を担当しています。「物理から研究を始めたのですが、いまでは化学が専門になりました。物理の面白さは、原理原則から物事を理解できること。これに対して、世の中にある実際の材料を通じて、そのからくりを理解しようとするのが化学といえるかもしれません。理工学部数学物理学科の物理科学コースで

は、そのどちらも学べることがあります」と同コースの特徴を説明します。

藤代先生が取り組んでいる研究の対象は、機能性セラミックスという素材。セラミックスとは身近なものでは陶磁器のように粘土などを焼き固めたもので、化学的には焼結により得られた酸化材料がこれに当たります。機能性セラミックスは、それら酸化物が示す物性のうち、人々の生活に役立つ性質に着目して材料化したものの、藤代先生は、電気（イオン）をよく伝導する、ガスを吸収放出する機能性セラミックスの合成、評価を行っています。

「例えば、現在あるリチウムイオン電池は電解質にリチウム塩をふくむ有機溶液を用いているために熱暴走の問題があります。固体中をリチウムイオンが高速で移動する電解質（機能性セラミックス）が開発できれば、この問題を解決できます」

こうした固体内をイオンが移動する機能性セラミックスを研究する場合、なぜイオンが動くのか、どうすればもっとイオンが動きやすくなるのか、あるいは、動くイオンの量が増えるのか。これらのことを解明するために、日々実験を繰り返しています。



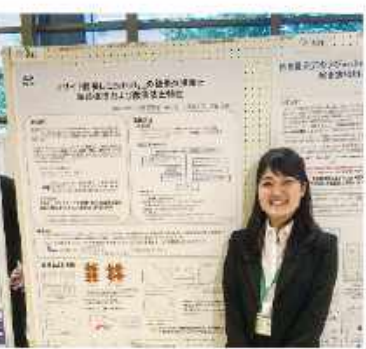
自作の酸素センサー

ガスを吸ったり吐いたり、奇妙な特性のものも創出

機能性セラミックスのなかでも、藤代先生が最近、重点的に取り組んでいるのは、空気中のガス成分と反応するタイプです。「機能性セラミックスのなかには、高温で空気中のCO₂（酸化炭素）と反応し、炭酸塩を生成することで固体としてCO₂を閉じ込めることができるものがあります。さらに、条件を変えて実験すると、このCO₂を再び空気中へと放出できます。このような可逆的な反応を応用すれば、CO₂を出したくないところへ回収し、必要に応じて放出する物質を作ることにも可能になります」

また、温度や周りの酸素濃度の変化に応じて酸素を出し入れできる機能性セラミックスも研究されており、すでに自動車の排ガス浄化用触媒などに応用されているといいます。藤代研究室でのこのようなガス成分と反応する機能性セラミックスの研究も、社会での応用につながり、人の役に立つ可能性が十分あるといえます。

研究室で学んだ成果を学会で発表できる！



学会発表の様子

「セラミックスは基本的な化学組成が比較的シンプルなため、その組成をどう制御するかが、キモになる」と藤代先生。「機能性セラミックスは、様々な元素を置換・添加することで特性を変化させられます。その元素の種類や量は、ある程度自由に選択できますが、真に有益な材料になる組成はほんの握りです。そんな玉探しのようなプロセスを繰り返しています」

食塩はNaCl（塩化ナトリウム）ですが、違う成分がわずかに混ざっている自然塩のほうが、味に膨らみがあるでしょう。機能性セラミックスもこれと同じで、置換・添加することによって、新しい性質が生まれ、初めて世の中の役に立つ材料になる場合が多いのです」と藤代先生。新たな機能性セラミックスを作り出そうと、元素の周期表を眺め、今度はどの元素を加えてみようか...と考えることも多いそうです。

学生や大学院生がさまざまな研究に取り組み、明かな結果を出してきました。研究室に仮配属されるのは、3年生の11月から12月頃。しかし、実際には研究に取り組むのは4年生の4月から、という研究室も多いなか、藤代研究室はすぐに研究をスタートさせるのが特徴です。このひと足早い取り組みによって、より長期間、研究を行うことができます。

化学の研究で重要なのは、何よりも実験。試料を天秤で正確に測り、化学的な手法によって、物質の合成実験を行います。首尾よくできあがったら、物性を評価してデータ出し。こうした実験を繰り返して、データが十分出そろったら、藤代研究室では大半の学生が学会での発表に臨みます。

「学会発表は絶対に行きたい。いいよ、とすすめています。研究の概要を大判のポスターにまとめるポスター発表は、もちろん、よりハードルの高い口頭発表を行う学生もいます。なかにはポスターと口頭の2回、学会発表をした意欲のある学生もいました。本当にいい経験になるので、ぜひ挑戦してほしいです」

今年もコロナ禍によって、実験が例年よりも遅れ気味。その分、藤代先生の指導のもと、学生たちは一層前向きに取り組むみたいと意気込みます。これまでにない、新たな機能性セラミックスの創出が見られるかもしれません。

教育研究部自然科学系 理工学部専門講師
ふじしろ ふみと
藤代 史
日本大学文理学部卒業。博士(理学)。2013年、高知大学に助教として赴任、2017年より講師。2017年度日本熱測定学会奨励賞。研究室ではキャンプやバーベキュー、出身地の宮城県で親しまれている芋煮会など、楽しい野外イベントも実施。



2017年5月、高知市河川敷にて



試料の合成まで

セラミックスの合成にはベッチーニ法(溶液法)などを用います。ベッチーニ法とは複数の金属イオンが溶解した混合溶液から前駆体を生成し、熱処理によって試料を合成する方法です。

受け継がれる デザインの力

地域社会の発展に貢献する人材を養成する、地域協働学部。その中で、アートの力で地域活性化に取り組むユニークなゼミが吉岡 洋准教授が指導するデザインゼミです。これまでの歩みと現在の活動に迫ります。

ゼミに受け継がれた 芸文のノウハウを

「グラフィックデザインを専門とするデザインゼミは、もともと教育学部生涯教育課程芸術文化コース、通称『芸文』にあるゼミだったので」と、デザインゼミのルーツを話す吉岡先生。生涯教育課程は学部の改組に伴って廃止され、2015年度から新規入学生の受け入れを停止。芸文は2018年、デザインゼミ最後の卒業生を送り出しました。一方で2015年に地域協働学部が開設。吉岡先生が異動したことから、デザインゼミは同学部のゼミになりました。

「芸文の時代も田んぼアートのデザインを制作するなど、地域貢献がゼミの活動の柱の一つになっていました。デザインはいかに社会と向き合うかが主流となっていて、教育もその面を重視しています。ゼミでも地域での活動を行っていて、学部が移っても変わっていません」

ただ、吉岡先生が気になっていたのは環境の変化。20年の歴史を持つ芸文には、美術教育の優れたカリキュラムとノウハウがありました。方、地域協働学部では美術領域の授業がほとんどありません。「それでも、何とか芸文のノウハウを引き継がなければならないと危機感を覚えていました」と吉岡先生は話します。

これを解決したのが、芸文と地域協働学部の交流でした。設立当時の地域協働学部では、1年生からゼミに入ることできたため、デザインゼミには芸文と地域協働学部の学生が混在する状況が生まれました。そこで、芸文

の先輩が地域協働学部の学生たちにアドバイスをすると

「なによりも、先輩たちの作品や制作する姿を直接見ることでできたのがよかったです。年の近い先輩が高いレベルの作品を作っている。しかも作品制作にのめりこむ様子や作る楽しさ、達成感や喜び、作品に向き合う熱意、熱量などが、学生同士で直接伝わっていた。芸文の命脈が地域協働学部のデザインゼミに引き継がれたと思いました」

増える展示会の開催 発表の場が学生を磨く

現在、デザインゼミに所属している学生は、3年生2人、4年生が3人。すでに芸文コースに所属した学生とゼミを共にした学生はいませんが、芸文の命脈は受け継がれていると吉岡先生は感じています。グループ展も、徐々に開催の数を増やしてきました。「展示会を行わないと、制作が自己完結してしまいます。何十時間と作品

制作に費やすことは、もちろん本人の力にはなりませんが、それでも、自分の名前を背負った作品を第三者に公開するという経験は、創作活動を続けるためにはとても重要なのです」

ゼミの活動の軸はグラフィックデザインですが、他にも教育学部附属幼稚園でのキッズアート、附属病院でのホスピタルアート、ヘルシーエイジングなどの教育実践を行っており、吉岡先生が関与するプロジェクトの参加などによってもデザインのスキルを磨いています。自由な作品制作や、地域芸術祭の研究など、学生の自由な活動も盛ん。過去には高知で活躍した幕末の絵師 絵金に関する調査やフィールドワークなども行いました。

「地域の文化芸術をどのように守っていくのがベストなのかを考えたり、自分の足元にある文化を学ぶきっかけにもなったりする活動です。こうした文化研究は、今後もゼミで取り組んでいきたいと思っています」

新型コロナウイルスによって活動がままならない現在は、オンラインミーティングによつて活発に議論をしているそうです。「私が参加するとプレッシャーがかかるらしく、退室を促されることもあるのですが」と、吉岡先生は笑いながらも学生たちの自主性を頼もしく思っています。大学が日常を取り戻したときに何ができるのか、ゼミ生たちは真剣に話し合いを重ねています。

わたしたちの展覧会

「Poの温度展」

2019年11月5日～11日

高知大学のデザイン活動集団「Po creation」による初の展覧会。デザインゼミのゼミ生や吉岡先生を含む9人の参加者の作品は、グラフィックスやレザ、イラストなどバラエティに富んでいました。

高橋萌瑛さん(3年生・高知県出身)

「展覧会での作品発表が 今後の制作活動の原動力に」

——「Po creation」ってどんな集団？

学部や学年に関係なく、デザインやアート、モノづくりなど制作したい人が集まって、自分たちがインプットしたものを展覧会でアウトプットしようという集団です。私はデザイン分野に興味があり、学外での展覧会に出品することにあこがれもあって、2年生の時に参加しました。

——どのような作品を展示しましたか？

イラスト作品です。紙に描いた絵をデータとしてパソコンに取り込んで透明のフィルムに印刷し、さらに背景を水彩で手書きして合体させました。

——展覧会に出品した感想は？

展覧会に参加したことで、今後の作品制作への原動力になったと思います。また、ほかのメンバーの作品を会場で見られたことは、とても刺激になりました。

——今年からデザインゼミの所属ですが、どんなことに期待していますか？

ゼミ生は皆、芸術という点ではつながっていても、自分とは違う視点や違う分野の研究をしていて、私が知らない世界を持っています。そういう人たちと一緒に活動することで、自分自身の世界がもっと広がったらいなと思います。

「KAMI展」

2019年7月24日～8月4日

デザインゼミ3年生3人による展覧会で、和紙を素材にファッションデザインのプロトタイプ(試作)を制作。キャンパス内のディスプレイホールに展示しました。共通の素材を使いながら、会場には三者三様の作品が並び、作者の個性があふれた展覧会になりました。

井上雄一郎さん(4年生・愛媛県出身)

「作品を作ることで 見えてくる世界を求めて」

——なぜ、「KAMI展」を開いたのですか？

ゼミに所属してすぐの時期で、先輩の活動や吉岡先生の言葉から制作を通して得るものが多いと教わりました。そこで自分たちも何か作ろうということで、地域的なことと関連付けて「和紙」という素材に着目したんです。僕は帽子を、森田さんは服を、もう一人がサコッシュという小さなバッグを制作しました。

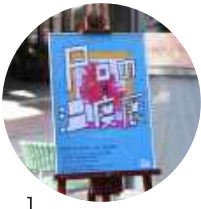
——4年生は来年、「合同卒業制作展」が控えていますね。

「合同卒業制作展」は教育学部の美術教育コースの学生と一緒に行う展覧会です。来年のテーマは「カーテンコール」ですが、まだ具体的にどのような作品にするのか決まってはいません。ただ、大学生の今の自分を表現する最後の機会だと思うので、熱量を上げてやっていきたいと思っています。

——デザインゼミの印象を教えてください。

作品制作は1人でもできることですが、ゼミに所属することで吉岡先生から専門的で多角的なフィードバックを受けることができ、先輩からもたくさんアドバイスをもらいました。ゼミにいるからこそ成長できることが多く、その環境が整っていることがゼミのいい点だと思います。

1.2.「Poの温度展」
3.4「KAMI展」
5.6「学年末制作展」



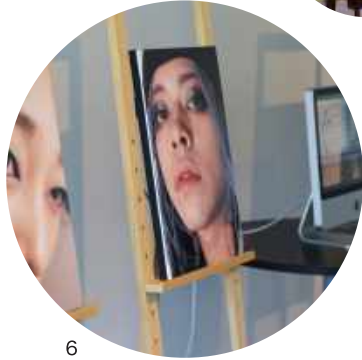
2



3



4



6

デザインゼミの学生が制作した広報誌で展覧会の模様などを紹介。



「学年末制作展」

2020年1月27日～2月8日

デザインゼミ3年生3名による学年末制作展は、キャンパス内のディスプレイホールで開催され、グラフィックデザインやテキスタイルデザイン、メイクアップアートなどさまざまな表現方法で、1年間の成果を発表しました。

森田美哉子さん(4年生・高知県出身)

「作品を制作することだって、研究になる」

——学年末制作展はどのような展覧会ですか？

地域協働学部では学年ごとに論文の執筆が課せられます。もちろんデザインゼミの学生もですが、昨年から作品制作+作品解説をセットで論文として提出できるようになりました。その制作物を展示した展覧会です。

——森田さんが発表したのはどんな作品？

わたしはメイクアップの研究及び作品制作をしています。友人の男女4人にモデルになってもらい、メイクアップを写真と映像として残しました。何か新しいことに挑戦しないと面白くないと思い写真だけではなく映像も制作してみましたが、編集作業はわからないことだらけで思ったよりも大変でした。

——デザインゼミはどんなゼミですか？

地域協働学部の中で、作品を学年末論文のひとつとして制作できる唯一のゼミです。美術・デザインの実技系教員としては吉岡先生だけです。なので、アートに興味がある人が集まるゼミです。ゼミのメンバーそれぞれが自分の興味のある分野を研究していて、わたしはメイクに興味がありますが、デザインをする人、絵を描く人、それぞれ違います。ですがみんなアートという根っこで繋がっているの、影響を受けることや学ぶことがたくさんあります。



教育研究部 人文社会科学系
教育学部 准教授

よし おか かず ひろ
吉岡 一洋

徳島県出身。大阪芸術大学卒業。鳴門教育大学大学院修士課程修了。徳島大学大学院博士課程修了。博士(学術)。専門は、グラフィックデザインと版画。主な受賞歴は、二科展デザイン部特選、日本版画会展奨励賞、カダケス国際版画展入選(スペイン)、レッセドラ国際版画展入選(ブルガリア)、他国内外の展覧会で入選多数。作品制作のほか、地域の芸術文化に関して比較文化研究を行う。



学内外でキラッと光る
高知大生をピックアップ!

キラ★星 高知大生

大学を早期卒業し、 大学院進学を目指す!



3年間で全単位を履修し、 博士号取得まで突き進む

大学の学びは通常4年間ですが、意欲のある学生を対象にした“飛び級”のような特例も設けられています。それが「早期卒業」。卒業までに必要な124単位を3年間で履修し、しかも優秀な成績を修めなければいけないという、極めて難易度の高い制度です。この早期卒業を目指しているのが、農林海洋科学部2年生の大成冬真さん。2016年に同学部が発足以来、初めてのチャレンジとなっています。

「早期卒業すれば、優秀な人材だと社会から評価されるのではないかと、勝手に想像しています」と大成さん。目指すきっかけになったのは、入学した年、全国の大学院の研究室について調べていたときのこと。「北陸のある大学院では、早期卒業をして入学すると、授業料免除などの豊富な経済的支援を受けられることを知りました。大学院で学ぶための費用は自分で賄いたいと思っているので、とても魅力を感じましたね。気になる研究室もあったことから、まずはその大学院にフォーカスを当てて、早期卒業を目指すことにしました」

大成さんは、高校時代の恩師が博士号を取得しており、その論理的な思考の仕方を尊敬していたこともあって、自分も博士課程に進みたいと考えています。ただ、一般的には博士課程を修了したときは27歳。やや年齢が高いので、企業から採用されにくいのが現実です。しかし、早期卒業をすれば、この問題をクリアできる可能性があります。

「大学を3年で卒業し、さらに大学院の博士課程を早期修了できれば、まだ25歳。この年齢なら、企業も採用するメリットがあるのではないのでしょうか。ハードルは相当高いのですが、取り組む価値が大きいと考えています」

自分の前に広がる将来を見据え、大成さんは本格的に動き出しました。

新型コロナ禍の非常時でも 迷いや不安はなし

2年生に上がる前、早期卒業を目指したいことを大学に申請し、成績などの条件を満たして履修開始年次の緩和が受理された大成さん。これから3年生になるまで学期が進むごとに審査があり、成績基準と履修単位数が足りているかなどの審査基準に合格する必要があります。そのため午前中は2年時に履修すべき講義を受け、午後には本来なら3年生で行う実験を入れるという、目が回るほど忙しいカリキュラムを組みました。みっちり入ったスケジュールは、スマホのリマインダーというアプリで管理。早期卒業に向けて突き進む体制を整えました。

しかし、思わぬ新型コロナウイルスの流行が発生。高知大学でも特別対応体制を取り、講義は9月30日までオンラインで実施されます*。こうした非常時ですが、大成さんには大きな不安はないといいます。「オンライン授業は特に不便はなく、何度も見返すことができるなど、むしろ対面の授業よりも良い面が多いかもしれません。先が見えないところではありますが、そんなのはこれからの道のりと比べたら、何でもないことだと思います」

大成さんが希望するのは遺伝子工学・タンパク質工学、免疫学などの分野での研究。何か新しいことを解明したり、作り出したりし、医療の進歩に貢献したいと考えています。「ぼくはやりたいことが決まっており、はっきりした目標があります。希望する場所で活躍している自分をイメージすること、なりたい自分に近づこうと行動することが、モチベーションの維持になっています」と大成さん。早期卒業とその先にある飛躍に向けて、日々奮闘しています。

※6月取材時点。新型コロナウイルス感染症の状況に応じて講義方法は変わります。

農林海洋科学部 2年

おお なり とう ま

大成 冬真さん

広島県出身。応用微生物学を学ぼうと高知大学に入学。「早期卒業後、なるべく高いレベルの大学院に進んで、学会で論文を発表したい」。授業料免除となる「卓越大学院プログラム」といった経済的支援のある制度や、博士課程から給料が支給される大学院なども模索中。

高校生の皆さんへ

大学名だけでなく、その大学で何が学べ、どんな研究をしているのか(どんな研究室があるか)を重視することも一つの選択肢。地方の大学だからといって諦めないことが成長につながると思います。



卒業後も絵を描き続け、 登竜門の公募展でグランプリ!

高知大学で美術を学んで、もう引き返せないくらい、絵を描くのが好きになりました。卒業後は大学生のときよりも絵に打ち込んでいるかもしれません。休日はほぼ1日中、キャンパスに向かっていきます。仕事のある平日も、寝る前のちよとした時間などによく描いています。学生時代、かなり大きな公募展で受賞し、頭が真っ白になるほどうれしかった経験もあって、年に2、3回は公募

卒業後はどのように 絵を描いていますか?

子どものころ、ノートの隅などに絵を思いつくままに描くのが好きでした。高知大学に入学後、西洋画や日本画はもちろん、工芸や彫刻、デザインなども幅広く学ぶなか、自分がやりたいことが見えてくるようになりました。本当は絵が大好きなことがわかったんです。やればやるほど上達して、どんどんのめり込んでいきました。師事した土井原先生は写実主義の画家で、「ウツをつかれん」と教わりました。この教えを守って、いまも題材を決めたら、しっかりと取材をするにしています。自由に描ける定期的な発表会では、「シニールな世界観」をテーマに作品作り。この方向性は、いまも変わっていません。

大学ではどういったことを 学びましたか?

子どものころ、ノートの隅などに絵を

展に出品しています。でも、応募が目的の作品だけを描くのは、ちよと苦しくて…。同時進行でもう1作、それほど細かく描き込まないような絵を描くことが多いですね。そうした絵は、ギャラリーで個展を開くなどして発表しています。

公募展「昭和会展」*で 最高賞を受賞しましたね

若手の登竜門的な賞で、今年1月に初めて出品しました。1月27日、仕事を終え、車のエンジンをかけようとした瞬間、主催の画廊から電話が入って「グランプリです」「えっ?」と、何度も聞き返したら、笑われてしまいました。本当に、いたずら電話だと思ったんです。電話を切ったあと、涙がぼろぼろ出て…。ずっと、この方向性でいいのかなと思いつつ、描いていました。まさか、報われるとは、受賞した「春の掟」は、私が苦手な春を表現したものです。なんだか拔

教育研究部人文社会科学系教育学部門教授
(教育学部美術教育コース)
ど い はら たかひろ
土井原 崇浩 教授

稲田さんは、学生時代から既に独特な発想力と確かなイメージの再現力を持ち合わせておられました。この度の昭和会展賞は、稲田さん本人が己の個性を大切にしながら、自己研鑽と努力の継続によって得られた誠に素晴らしい成果だと思います。実力本位のコンクールにおいて、将来有望なプロ画家として認められました。今後益々のご活躍を期待しております。



じつは、満足のいく絵はまだひとつも描けていません。今回受賞した作品も、完成度でいえば6割でしょうか。頑張つて、8割程度の完成度を目指したい。それと、いま実家の自分の部屋で制作しているのですが、手狭になってしまつて。もつと絵を描くスペースがほしいので、思い切つて軒家を買おうかなとも考えています。

※「昭和会展」…若手作家を発掘、激励することを目的とする公募展で、日動画廊の主催。若手画家の登竜門的な公募展とされる。第1回受賞者は本県出身の文化勲章受章者、奥谷博さん。

がんばる! 先輩



社会で活躍するOB・OGを紹介

稲田 友加里 (28歳)

教育学部 生涯教育課程 芸術文化コース 2014年卒業



い ち だ ゆ か り
稲田 友加里

高知県出身。2010年、高知大学教育学部生涯教育課程芸術文化コース(美術)に入学。油彩画を専門とする土井原崇浩教授に学ぶ。在学中、全国規模の公募展「独立展」入選。現在、高知市の建築設計事務所に勤務し、二級建築士の資格取得を目指す一方、絵画制作に取り組んでいる。

キャンパスライフひと言アドバイス

私は高知大学に入学後、やっと自分のビジョンが見えてきました。人生、何があるかわかりません。大学でいろいろな講義を受けるなか、自分の将来を考えていくのもいいかと思っています。学びを大事にすれば、いいことが絶対にありますよ。

Kochi University Topics

大地の力 コンペ2020 未来創造賞受賞

地域協働学部が学生たちが企画した、土佐山のユズを使ったお菓子の開発プランが全国コンペで入賞

一般社団法人「未来農業創造研究会」が開催する「大地の力 コンペ2020」で、今年3月、地域協働学部の学生グループの企画が入賞しました。

「大地の力 コンペ」は、農業の力を活かして地域課題を解決するための企画を広く全国の社会人や学生グループなどから募集するもので、2017年から毎年行われています。今回は「農業×故郷を活かす」がテーマ。138件の応募の中から、地域協働学部のグループはグランプリなどに続く5番目の未来創造賞を受賞しました。

メンバーである3年生の木村まいさん、後藤佳奈さん、谷口明日美さん、松宮諒さんの4人でエントリーした「つながる・広がるユズ産業の輪」は、1年生から実習で通っていた高知市土佐山地域のユズを使ったプラン。障がい者就労支援をしている菓子工房などと連携し、従来は廃棄されている傷物などのユズを使ったドイツ菓子の商品開発を行おうというものです。異業種間のコラボレーションによって、地域の発展と取り組みの拡大を狙っています。

現在、新型コロナウイルス拡大の影響を受け、同企画の事業化が進まない状態にあります。しかし、できることから進めていきたいと、4人のメンバーは意気込みを話します。

●土佐山実習班

地域協働学部
3年生

木村 まい さん
(京都府出身)



地域協働学部の授業の中で、どのように事業計画を立てるのかなどを学んでいたのですが、これまでの学部での学びを活かせるのではないかと考えてコンペに参加しました。今はコロナの影響で計画を実行できていませんが、SNSを使った活動報告として土佐山の情報の発信などを行っています。

地域協働学部
3年生

後藤 佳奈 さん
(島根県出身)



企画名の副題に「モノづくりからヒトづくりへ」とつけたように、モノ作りの過程でいろいろな組織が連携することで、地域の発展や取り組みの拡大に寄与できればという計画です。われわれ学生はあくまで種まき役という立ち位置で、主体は土佐山の住民皆さんであることを大切に考えました。

地域協働学部
3年生

谷口 明日美 さん
(和歌山県出身)



時間がない中での企画作りやデータ収集には苦労しました。特にコンペを見つけたときは1次審査の締め切りが3日後に迫っていて…。その後も3次審査までデータ収集などに追われ、冬休み返上で乗り切りました。企画立案から審査につなげることができ、充実した学びを経験できました。

地域協働学部
3年生

松宮 諒 さん
(山梨県出身)



受賞はうれしかったのですが、正直、もっと上を目指していたので…。しかし、今回受賞できたのは土佐山の方々や先生方のおかげです。土佐山の力になればというメンバー全員の思いで立てた企画ですが、多くの人に支えてもらったからこそその受賞だということが身に染みて感じました。

高知大学・旭食品株式会社 共同研究講座設置



共同研究講座設置について記者会見
(写真左：櫻井高知大学長、写真右：旭食品の竹内社長)

令和2年4月、高知大学と旭食品株式会社による共同研究講座を物部キャンパスに設置しました。

同講座には、旭食品株式会社の子会社である株式会社旭ものづくり研究所の上席主任研究員らが常駐し、本学の教員や学生とともに、ユズなどの高付加価値化や機能性の評価、検証、研究開発を進めます。

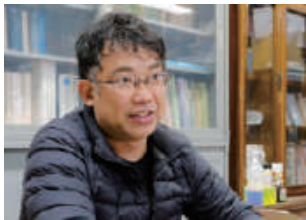
今後は、産学連携によって、大学の学術的・技術的専門性を活かした研究と、さらに機能性や高付加価値性に優れた商品開発をめざしていきます。

世界初！フリーズドライ精子で子牛が誕生

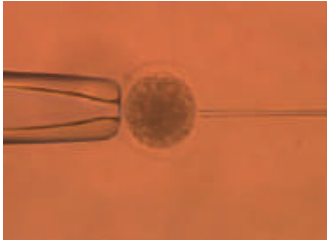
農林海洋科学部の松川和嗣准教授が宮城県畜産試験場との共同研究で、凍結乾燥（フリーズドライ）による子牛の誕生に世界で初めて成功しました。

従来、肉質の優れた雄牛の精子の保存にはマイナス196度の液体窒素が用いられてきましたが、液体窒素は気化してしまうため定期的に補充しなければならず、その生産のための環境負荷や人体への悪影響（酸欠や低温やけど）、自然災害や伝染病発生時の貴重な遺伝資源の損失のリスクなどがデメリットとなり、持続的な家畜生産の影響が懸念されています。

凍結乾燥（フリーズドライ）はインスタントコーヒー、みそ汁など食品や衣料品の保存では一般的な技術で、この技術の精子保存への適用によって窒素の供給コストや安全面等のリスクがなくなり、遺伝資源の安全安心な保存が可能になります。今後は、土佐あかうしなどの希少な和牛精子を保存するための実用化や他動物への応用、そして乾燥して“死んだ”精子が生命誕生のスタートとなる謎の解明が期待されます。



総合科学系
生命環境医学部門
松川 和嗣 准教授



顕微授精の様子：ウシ卵子（中央）
右のガラスピペット内に精子がある



令和2年4月14日、凍結乾燥精子から誕生した黒毛和種の子牛
(宮城県畜産試験場・及川俊徳博士提供)

高知大学南浜会から旧制高知高校 210人分の戦没者プレートを受贈



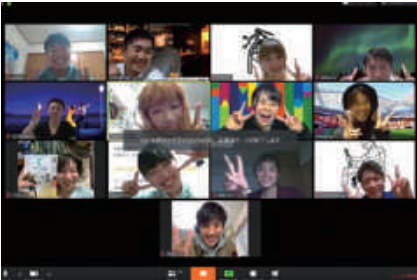
朝倉キャンパスの図書館に展示された戦没者プレート

高知大学南浜会（高知大学文理・人文・理・人文社会科・理工学部同窓会）から、旧制高知高校で学び太平洋戦争でお亡くなりになった学徒兵の方々のお名前が刻まれた戦没者プレートが寄贈されました。

この戦没者プレートは、南浜会員の大川信男さん（95歳）らが、「今の平和が多くの犠牲の上にあることを高知大学関係者にも知ってほしい」と、同級生への聞き取りなどで210人の名前と卒業回、生年月日、戦死した場所を調べられたものです。

これから、高知大学朝倉キャンパスの図書館にて後世に受け継がれていきます。

コロナ禍でのチャレンジ精神あふれる 学生生活



オンライン相談会の様子

コロナ禍で不安な4月を迎えた新入生を励まそうと、先輩学生が企画し、オンライン上で先輩学生が新入生の相談にのる「なんでも聞いていっちゃ」が毎週夜に開催され、4月末には「WithコロナとAfterコロナ」と題した最終日のオンライン・ミーティングが行われました。また、同様に5月にも学生主導でコロナ禍の中、就活に不安を抱えている学生や、オンラインでの採用活動をやってみたいと考えている高知県内の中小企業をつなぐ交流企画「社会人と学生のオンラインdeしゃべり場」、「オンライン合説in高知」が開催されました。その他にも、さまざまな活動が自発的に行われ、メディアに取り上げられるなど、コロナ禍でも、チャレンジ精神あふれる高知大生です。

学生に対する食糧支援を実施



▲食糧支援を受ける取る学生



食糧支援
(1人分の内容)

新型コロナウイルス感染症に伴う学費負担者からの仕送りやアルバイト収入の減少により、経済的に困窮している学生に対し食料支援を行いました。

配付した食料は、教職員からの寄附で集めたコメ、農林海洋科学部で栽培しているコメや野菜、本学が所有している災害用備蓄品のアルファ化米やビスケットを使用しました。

また、県内企業の（株）エッグメール様から卵（3,400個）の寄附があり、食料の配付に合わせて卵の配付も行いました。

本学ではこれからも、様々な学生支援策を実施していきます。

新型コロナウイルス感染拡大に伴う学生支援（募金）のお願いについて

高知大学では、これまでも多くの皆様からご寄附を賜っておりましたが、今回の新型コロナウイルス対応を含んだ幅広い学生支援のために、より一層のお力添えを賜りたく、ここに募金をお願いする次第です。この難局を乗り越えられますように、皆さまの温かいご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

詳しくは、大学のホームページをご覧ください。



■高知大学さがげ志金 支援事業報告

皆さまからの大いなるご協力のもと、令和元年度は、さがげ志金から主に下記の支援を行いました。

【主な支援の内容】

- 海洋生物教育研究センターの設備修繕経費の支援
- 理工学部キャリア教育支援事業経費の支援
- 課外活動用のワンタッチテント購入経費の支援
- メディアの森リフレッシュコーナーのリニューアル経費の支援



修繕により再開した学生の飼育実験



リニューアルしたリフレッシュコーナーを利用する学生

その他含め全体では **10 件 総額／ 2,573,928 円** の支援を、さがげ志金から行いました。

■高知大学修学支援基金 支援事業報告

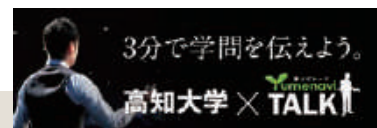
皆さまからの大いなるご協力のもと、令和元年度は、修学支援基金から右記の支援を行いました。

奨学金 給付	14名	300,000円	（計……4,200,000円）
	6名	150,000円	（計……900,000円）
	合計 20名		（計……5,100,000円）

「高知大学さがげ志金」及び「高知大学修学支援基金」に寄附を行う際は、インターネット決済サービスによる「クレジットカード決済」、「コンビニ決済」、「Pay-easy決済」がご利用いただけます。

〈お問い合わせ先〉高知大学総務部総務課

TEL:088-844-8100 FAX:088-844-8738
E-mail :sj02@kochi-u.ac.jp URL :http://www.kochi-u.ac.jp/



▲高知大学 受験生サイトのこのバナーからアクセス!

Web Open Campus

Web オープンキャンパスを開催

8月18日(火)から8月30日(日)に、高知大学の魅力や入試情報を動画で観ることのできる「高知大学WEBオープンキャンパス」を開催します。

受付期間/7月27日(月)～8月30日(日)

本学ホームページからお申し込みください。詳細が決まり次第、順次掲載します。

高知大学 受験生サイト

▼パソコンはこちら

<https://nyusi.kochi-u.jp/>

スマホはこちら▶



他にも情報
いっぱい!
ぜひ閲覧して
みてください。

●お問い合わせ先 入試課入試広報室

TEL.088-844-8766 FAX.088-844-8147

■高知大学のラジオコーナーがリニューアル

高知大学のラジオ「Monthly 高知大学」では、高知大学の教育・研究・地域貢献等の情報を毎月第4金曜日10時15分からお届けしています。ラジオ視聴用アプリ「radiko」をダウンロードしていただくと、FM高知の放送が、スマホやパソコンで全国どこでも視聴いただけます。



※写真はイメージです。

FM 高知 81.6MHz
「Monthly 高知大学」
【毎月】第4金曜日 10時15分～



ラジオ視聴アプリ
「radiko」でも
視聴できます。

放送中

■高知大学古本募金

読み終わった本で高知大学をご支援ください。高知大学古本募金は、皆様から読み終えた本・DVD等をご提供いただき、その査定換金額が高知大学に寄附される取組です。古本募金を通じて集まった寄附金は「高知大学さきがけ志金」として受け入れ、本学の教育研究・社会貢献活動の向上のために役立てられます。

〈お問い合わせ先〉

☎ 0120-29-7000

(受付 9:00～18:00)

高知大学古本募金

検索

運営協賛: 古本募金きしやぼん(嵯峨野株式会社)

本・DVD

↓ 配送 ↓

古本募金
きしやぼん

↓ 査定・寄附 ↓

大学

5冊以上で
送料無料査定額+100円
を大学へ寄附

■広報誌 Lead 2020 夏号アンケートご協力をお願い

アンケートに
ご協力いただいた方の中から
抽選で5名の方に高知大学
オリジナルグッズをプレゼント!

※当選者の発表は賞品の発送をもって
かえさせていただきます。
回答期限: 令和2年10月末

右記の2次元バーコードを
読み込み表示された
アンケート画面にて
ご回答ください。



★高知大学広報誌Lead2020夏号アンケート

広報誌Lead2020夏号アンケート

ご協力をお願いいたします。

※アンケート結果は、広報誌Lead2020夏号に掲載いたします。

※アンケート結果は、広報誌Lead2020夏号に掲載いたします。

※アンケート結果は、広報誌Lead2020夏号に掲載いたします。

※アンケート結果は、広報誌Lead2020夏号に掲載いたします。

※アンケート結果は、広報誌Lead2020夏号に掲載いたします。

※アンケート結果は、広報誌Lead2020夏号に掲載いたします。

※アンケート結果は、広報誌Lead2020夏号に掲載いたします。

※アンケート結果は、広報誌Lead2020夏号に掲載いたします。

※アンケート結果は、広報誌Lead2020夏号に掲載いたします。

※アンケート結果は、広報誌Lead2020夏号に掲載いたします。

※アンケート結果は、広報誌Lead2020夏号に掲載いたします。

※アンケート結果は、広報誌Lead2020夏号に掲載いたします。

■広報誌 Lead への広告募集中!

高知大学は、地域に根差した大学を目指し、高知県内に事業所等を有する企業等を対象に、「広報誌 Lead」への広告(有料)を募集しています。希望される方は、下記までお問い合わせください。

高知大学総務課広報係 E-mail: kh13@kochi-u.ac.jp

新型コロナウイルスに対する本学の対応については、
大学ホームページのトップページ「重要なお知らせ」に最新情報を
掲載していますので、ご覧ください。

●お問い合わせ先

皆様からのご意見・ご感想をお待ちしております。



高知大学
Kochi University

高知大学総務課

高知大学

検索

<http://www.kochi-u.ac.jp/>

TEL.088-844-8643 FAX.088-844-8033

〒780-8520 高知市曙町2-5-1 E-mail: kh13@kochi-u.ac.jp

バックナンバーは
こちらから
ご覧いただけます。